

支店長の わがまち紹介 第68回



カシマサッカースタジアム

鹿嶋市

筑波銀行は地域金融機関として、地域の皆さまとの密接な繋がりを持たせていただいております。「支店長のわがまち紹介」は、筑波銀行の支店長が所在エリアの市町村をご紹介させていただくコーナーです。今回は茨城県鹿嶋市です。鹿嶋支店長が鹿嶋市長 錦織孝一氏にお話を伺いました。

鹿嶋市は「筑波経済月報」第21号(2015年4月)第21回本コーナーにて紹介させていただきました。改めまして、本市の魅力や特徴、展望についてお聞かせください。

■発展するポテンシャルが高いまち

本市は、人口67,000人程の都市でありながら全国的な知名度と数多くの資源を有しており、発展するポテンシャルが高いまちといえます。

2600年もの悠久の歴史を持つ「鹿島神宮」には、年間約250万人もの参拝者が訪れ、Jリーグ鹿島



下津海岸



鹿嶋市長 錦織 孝一氏



鹿嶋支店長 斉藤 尊潔

アントラーズのホームスタジアムである「県立カシマサッカースタジアム」には、試合のたびに多くのサポーターが集結します。

また、最新技術が集積した工業都市でありながら、海、湖等の豊かな自然を有し、農水産物も豊富です。気候は温暖で安定し、年間を通して非常に住みやすいまちです。

しかし、私が市長となった1期目に市内101カ所で開催した「車座懇談会」で、多くの市民の皆様様の「生の声」に接する中、解決すべき課題が多いことを実感しました。2期目の現在、諸問題を解決するために、「市民の皆様との“共創”によるまちづくり」に取り組んでいるところです。

■子ども達は、未来を創る宝

グローバル化や情報化の進展、人工知能の普及等社会が激動する中、自ら考え、行動し、新しい時代を切り拓く力を身につけるためには、「確かな学力」や「豊かな人間性」等を育むことが大切です。このため、本市の第三次総合計画では、将来像として「子どもが元気 香る歴史とスポーツで紡ぐまち鹿嶋」を掲げ、各種施策に取り組んでいます。

儒教では、いつの時代でも人が守るべき正しい道「仁・義・礼・智・信」の5つの徳(五常)があります。私は、頭脳が優秀でも人間として生きる道が備わっていない者は、立派な社会人にはなれないと考えています。そのため、スポーツを通じた人間形成に強い想いがあります。

幸い、本市にはカシマサッカースタジアムがあり、間近にプロの試合を観戦できる環境があります。しかし、残念なことに、まだスタジアムを訪れたことのない子どもも多数いることから、市内の全小学校の児童がスタジアムでアントラーズの試合を観戦する全校応援事業をこれまで2回実施しました。是非とも子ども達に、「自分の故郷には素晴らしいサッカースタジアムがある、輝かしい選手の姿がある」という感動を体験してほしいと願っています。

また、平成27年10月に新設した「教育センター」の運営にも力を入れています。ここでは、教職員研修や相談機能を一つにまとめ、先生、保護者、子どもの悩みや相談を一元的にケアしています。様々な声が寄せられ、昨年だけでも500件を超える相談に対応しました。

さらに、学校教育の面では、英語教育の充実、アクティブ・ラーニングの推進、専科教員の配置等に注力しています。

子育て環境の充実に向けては、「子育てするなら鹿嶋市で！」をキャッチフレーズに、第3子以降の子が15歳になるまで支給する「子宝手当」、18歳までの医療費助成、保育園定員拡大による待機児童0の実現、病時保育事業の開始、「子育て世代包括支援センター」の開設等、様々な施策に取り組んでいます。

昨年本市では、第1・2子の出生数が減少しているのに対し、第3子は逆に増加しました。これは「子宝手当」の成果ではないかと考えています。

■鹿嶋の顔「宮中地区」の賑わい創出

宮中地区は、かつて、鹿行地域の中心市街地として、鹿島神宮を中心に多くの商業施設が集積し、大変な賑わいを見せていました。

現在でも、正月3が日の初詣だけで、鹿島神宮には約70万人が訪れており、また近年では、日本最大級のパワースポットとしてテレビ番組等でも大きく取り上げられていることから、若い世代を中心とする来訪者も増加しています。



鹿島神宮の初詣

本来、宮中地区は、悠久の歴史を誇る鹿島神宮が鎮座するオンリーワンの地域であり、「鹿嶋の顔」となるべき場所です。

しかし、年々空き店舗や空き地が増加し、寂しい場所となってきています。そのため、「鹿嶋の顔」として、かつての賑わいを取り戻したいと考えています。

宮中地区の再生については、過去にも幾つかの構想が提案されてきましたが、残念ながら実現には至りませんでした。再生は市民の熱意がなければ達成できません。私は2020年の東京オリンピックが、その絶好のチャンスだと考えています。そのため、鹿島神宮や商工会、観光協会、漁協、農協等との共同出資で、「まちづくり鹿嶋株式会社」を設立しました。さまざまな知恵を絞り、宮中地区をはじめとする本市全体の活性化を目指しています。

また、私が考えるまちづくりの原動力は、「市民の郷土を愛する心、想い(郷土愛)」です。郷土愛を育むためには、まずは郷土を知ることが大切です。「鹿島立ち」という言葉もあるとおり、鹿島神宮は、かつて防人が九州に出立する際に武運長久を祈願した由緒ある場所です。また、本市は剣聖・塚原

ト伝の生誕の地でもあります。しかし、このような素晴らしい歴史や近代の鹿島開発等について、しっかりと理解している市民が少ないと感じています。

本市は鹿島開発により、本市以外の地から来た方々が多いまちですが、子ども達のふるさは本市です。その子ども達が就職等で本市を離れても、最終的には、「親も友だちもいる、思い出もある、だから鹿嶋に帰りたい」と強く思ってもらいたいと考えています。

そのためにも、中心市街地の活性化だけでなく、本市の歴史を学び、発信できる拠点の整備について、市民交流施設と合わせて、市民や議会等の意見を聞きながら、判断していきたいと考えています。

■「アントラーズホームタウンDMO」で鹿行に賑わいを

近年、鹿島アントラーズの活躍により、中国や東南アジア等のサッカーチームから、ぜひ本市で試合をしたいという話をいただいています。このような機会を逃すことなく、鹿行地域が発展し続けるために、鹿島アントラーズのホームタウンである鹿行地域の5市(本市、潮来市、神栖市、行方市、銚田市)と民間企業とで、昨年、「アントラーズホームタウンDMO」を設立しました。この「アントラーズホームタウンDMO」では、スポーツツーリズムを中心とした観光プラットフォームを確立し、交流人口の拡大や雇用創出、地域活性化を目指しています。

今後、旅館や民宿等の宿泊施設の利用や特産物を味わってもらう等、多くの恩恵を鹿行全域で共有したいと考えています。

また、サッカーだけでなく、来る3月24日には、第1回「茨城100kウルトラマラソンin鹿行」が開催されます。参加募集600人は、あっとい



スポーツ交流の様子

う間に定員に達し、嬉しい悲鳴を上げています。鹿行5市が協力しあい、鹿行地域全体の活性化につなげたいと考えています。

■いきいき茨城ゆめ国体、東京オリンピックに向けて

本市では、いきいき茨城ゆめ国体2019の成年男子・少年男子のサッカー競技が市内の5会場で開催されます。また、カシマサッカースタジアムでは、東京2020オリンピック男女サッカー競技が合計11試合開催されます。

オリンピックは都市開催のため、本市でオリンピック競技が開催されることは、今後の歴史においてもないことでしょう。市長としてこのような歴史的な事業に携わることができ、非常に感激しています。

今回、本市でオリンピック競技が開催されることは、2002年FIFAワールドカップの遺産があったからこそと感じています。ワールドカップ開催当時は、企業の退職者をはじめとする多くの方々が、花いっぱい運動やボランティアガイド等として頑張ってください、本市のおもてなしが大変評価されました。それは、今でも受け継がれています。

2020年のオリンピックでは、選手や関係者をはじめ、世界中から多くの方が本市を訪れることでしょう。単なるスポーツの祭典に留まらず、歴史や伝統文化、自然、食等の本市の魅力を国内外に発信し、ワールドカップ時と同様、大会終了後もレガシーとして何か残せるよう、市民の皆様と共創し「オール鹿嶋」で取り組んでいきたいと考えています。

■筑波銀行に期待すること

預金や融資だけでなく、まちづくりや地域との関わり合いにもご協力いただき、ありがたいと感じています。

これからも貴行の持つ行政とは違った情報、地域全体の経営や将来の展望、時代を反映した認識等を共有させていただくとともに、本市の地域資源を活かした魅力ある商品やサービスの開拓、情報発信に向けた取り組みへのご協力を期待しています。

取材日：2019年1月17日

写真提供：鹿嶋市